



檀原北やまとこども園

第1回三者協議会資料

社会福祉法人アタラシイカタチ

ごあいさつ

皆様はじめまして、この度、橿原市公私連携幼保連携型認定こども園（真管北・耳成西校区）整備・運営事業者に選定いただきました社会福祉法人アタラシイカタチ 理事長 生田宏史です。

本事業整備予定地の真管北幼稚園は、近鉄大阪線真管駅と近鉄橿原線新ノ口駅の間地点にあり、京奈和自動車道橿原北IC付近という交通事情も良い立地にある事から、近年は周辺地区の住宅開発が進み、特に若い子育て世代が多く住む地域にあり将来的に待機児童の更なる増加が見込まれます。

橿原市に暮らし近隣や大阪、京都に就業する子育て中の保護者にとっては、保育施設として利便性も含めてとても魅力の高い場所に立地しています。今後のニーズの高まりに対して当法人がこれまで培ってきた保育園・こども園運営の知識や経験、奈良市や大和郡山市での公立保育園や公立幼稚園の民間移管の実績、働き手である保育士の確保や働きやすい職場作りの経験が活かせる園だと考えています。

また、初めて真管北幼稚園を訪れた時に感じた、園舎の間をくぐり抜け、その先に見える広大な敷地の中にたたずむ園舎と自然豊かな広い園庭の中で子ども達が元気に走り回る事ができる環境は心が和み、この地で教育・保育ができることに感銘を受けました。私は、橿原市で生まれ育ちましたが、保育事業は大和郡山市と奈良市で行っており、いつかは地元の橿原市で保育事業を通して、何か役に立ちたいと常々思いを馳せていました。

真管北幼稚園・耳成西幼稚園が市立幼稚園として開園してからの長い歴史の中で地域と築き上げてきた信頼関係は、私たちが理想とするこども園の形を体現しており、これまで培ってきた知識や経験を活かして、真管北幼稚園の教育・保育活動を更に充実させることで、子ども達の笑い声と地域の人々の笑顔が混ざり合い、現在園に通っている子ども達が、結婚し、子どもを授かり、将来親子で園に戻って来れるように、地域に取って代わりのない子育て環境として、両園の教育・保育を継承し、守って行きたいと考えます。



アタラシイカタチこれまでの歩み

Year	Event
1980年	社会福祉法人郡山双葉会設立
1981年	やまと保育園を大和郡山市筒井町に開園
2001年	やまと保育園分園を大和郡山市今国府町に開園
2004年	やまと保育園分園を拠点化により、ふたば保育園を開園
2010年	はぐみ保育園を大和郡山市冠山町に開園
2019年	やまと保育園分園を大和郡山市高田町に開園し、やまと保育園からやまとこども園に名称変更
2020年	奈良市立鶴舞こども園を奈良市から民間移管を受けて、公私連携幼保連携型認定こども園鶴舞やまとこども園を奈良市鶴舞東町に開園 昭和保育園を大和郡山市社会福祉協議会から民間移管を受けて、昭和こども園を大和郡山市馬司町に開園
2023年	奈良市立西大寺北幼稚園の移管先候補法人に選定 やまとこども園分園を拠点化により、やまとこども園mimiを開園
2024年	奈良市立三笠保育園の移管先候補法人に選定 橿原市公私連携幼保連携型認定こども園（真菅北・耳成西校区）整備・運営事業者に選定
	奈良市立西大寺北幼稚園を奈良市から民間移管を受けて、幼保連携型認定こども園西大寺北こども園を奈良市西大寺赤田町に開園 奈良市地域子育て支援拠点事業「子育て広場 鶴舞やまとこども園」を開設
2025年	奈良市立三笠保育園を奈良市から民間移管を受けて、社会福祉法人アタラシイカタチ三笠保育園を奈良市西之阪町に開園



社会福祉法人 アタラシイカタチ

理事長 生田 宏史 やまとこども園園長
理事 阪本 博 社会福祉法人事務長
理事 廣野 隆信 元県職員
理事 脇田 哲 社会保険労務士
理事 北條 正崇 弁護士
理事 幸田 欣也 やまとこども園mimi園長
理事 生田 治 やまとこども園chouchou副園長
監事 藤崎 隆明 社会福祉法人理事長
監事 吉田 昌義 税理士
会計監査人 福井 信造 公認会計士

運営施設 やまとこども園、やまとこども園mimi、やまとこども園chouchou、やまとこども園hug、
昭和やまとこども園、鶴舞やまとこども園、西大寺北こども園、三笠保育園

職員数 約250名





私たちの遊びと学びのカタチ

- ・かたよりが有る
- ・全てのものが多様で異なる
- ・個々やそれぞれを大切にす
- ・自然を共有する



遊び × 学び



自然そのものが、遊びと学びの場

遊びや学びは、自然や気候や環境により、毎日変化するから同じものは存在しない。

変化する遊びは、多様な学びにつながる。

自然や生き物に寄り添うことは、個々やそれぞれの気持ちを尊重する。





自然がつなぐ遊び×学び

私たちは自然と共生する子どもから、こどものフィールドは地球だと気付かされた。

自然があるからこそ「足りないものに気付くことができる」
足りないものがあるから、こどもの感性は磨かれる。

こどもの感性を育む



運営に当たっての基本理念

乳幼児期における教育及び保育について、一体的に行うことを目的に、檀原市がめざす子ども像「いきいき・わくわく・にこにこ笑顔輝く子ども」の育成をともに目指し、「檀原市就学前の保育・教育統一カリキュラム」を基に、教育・保育理念、教育・保育目標を設定します。

それらに、当法人がこれまで培ってきた経験や教育・保育内容を組み合わせることで、子ども達が、社会の変化に柔軟に対応し、自らの力で未来を切り開く力の基礎を培い、生活や遊びの中で乳幼児期に必要な経験を保障します。

幼保連携型認定こども園は、様々な就業形態の保護者とその子ども達が利用する事から、保護者の就労環境に応じたきめ細かな支援が必要です。経験年数や在園時間の違う子どもが互いに刺激を受け成長し、育ち合える環境を大切にします。その中で、一人ひとりの成長や発達過程に合わせた援助ができるように、複数の保育教諭がクラスを受け持つ複数担任制を実施することで、子ども達の自己理解が深まり友達の中でも自信が持てるようになり、様々な気持ちを表現できるように援助します。また、日々の安心できる保育教諭とのやりとりの中で、人とふれあう楽しさや心地良さを感じ心の安定を図り、他者への理解へ繋げていきます。

0歳～1歳児の子ども達の保育については、「身近な人と気持ちが通じ合う」「身近なものに関わり感性が育つ」「健やかに伸び伸びと育つ」という視点を大切に、保育教諭や特定の大人と愛着関係を築くことが最も重要な時期であることから、自分でしようとする気持ちを尊重し、温かく見守るとともに愛情豊かな養護を実践します。また、2歳児に入り自我の育ちと自立心が芽生え始める時期には、一人ひとりの発達の特徴を捉え、運動機能の向上や生活習慣の自立を促し、自分の意思や欲求を温かく受け入れ、励ましながら意欲を育てていきます。

また、市立幼稚園から私立こども園への移行に伴い、これまでの保護者の生活形態の違いを踏まえた丁寧な支援を引継ぎ、当法人が得意とする「信頼される園づくり」を推進し、広報誌や園便りやコドモンなどを使用し、園の保育方針、保育行事、保育内容等の情報を積極的に伝える機会を提供し、保護者の願い・思いに耳を傾け受けとめながら信頼関係を深め、日常的な連携を密にして、共に子育てをしていく協力関係を築くよう努めます。



開園日と開園時間

(1) 開園日・開園時間			
休園日の設定		日曜日・土曜日（1号認定のみ）国民の祝日に関する法律に規定する休日・ 年末年始（12月29日～翌年1月3日）	
		1号認定子どもの長期休業期間 7月20日～8月31日・12月24日～1月8日・3月19日～4月7日	
開園時間 保育時間	平日	最大開園時間	7時15分～19時00分
		保育時間（1号）	9時00分～14時10分
		保育時間（2・3号標準時間）	7時15分～18時15分
		保育時間（2・3号短時間）	8時30分～16時30分
	土曜日	最大開園時間	7時15分～18時15分
		保育時間（1号）	—
		保育時間（2・3号標準時間）	7時15分～18時15分
		保育時間（2・3号短時間）	8時30分～16時30分



ア・タ・ラ・シ・イ
カ・タ・チ



アタラシイカタチとは
いつまでも変化しない本質的なものを忘れない中にも
新しく変化を重ねているものも取り入れること